

Crescendo

2025.02
vol.158

M E D I K I T A R T S C E N T E R くれっしえんど



▲『きっとアンティゴネ』ビジュアル撮影の一コマ

「新 かぼちゃといもがら物語」番外編として、
今年ギリシャ悲劇の『アンティゴネ』を原作に、
オーディションで選ばれた俳優陣とともに
『きっとアンティゴネ』を3月上旬に上演します。
中面では、上演台本を執筆・演出する立山ひろみの
インタビュー記事を掲載。
ぜひご覧ください。



今年は
番外編！

きつと アンティゴネ



上演台本・演出
立山ひろみ

6月に行われたオーディション時

Q. 出演者の皆さんの顔ぶれを見て、いかがですか。濃いですね！個性豊かな方たちが集まったなって。黒田吉郎さんはみかん農家で味わいがある役者さんだし、中野弥生さんは宮崎でテレビでも活躍されている特別なオーラがある役者さんですね。初めましての方もいらっやあって、宮崎出身で東京で活躍されている梢栄さんは、劇場の事業にご参加いただくのが初めてですし、アートな学び舎を受講くださった宮崎出身で東京在住の川添美和さんも一緒に何かを創るというのが初めて。ほかの宮崎で活躍されている出演者の皆さんも、一緒にクリエーションするのが初めての方が多く、どうお互いを面白がっていくか、というのが楽しみです。みんなそれぞれ違うところを存分に生かして、より役者さん個人の魅力を引き出していきたいなと思っています。

Q. “番外編”だからその魅力を教えてください。これまでの「かぼいも」は、日本で活躍されている劇作家さんに宮崎取材いただき、書き下ろしていただいた作品を上演していて、全部現代劇でした。今回、番外編として古典を扱うことで、新しく楽しめるところがたくさんあると思っています。古典は懐が深く、作品の中で遊ばせてもらえるんですよね。ギリシャ時代の台詞に宮崎弁を取り入れるとか、実験的な要素を入れたいと考えているので、古典だけでも新しい舞台を観るという感覚があると思いますし、古典の良さだけでなく、2025年に上演する『アンティゴネ』が帯びる現代性も合わせて、楽しんでいただけるんじゃないかなと思います。

Q. なぜ『アンティゴネ』を原作に？
オーディションで個性豊かな方々と出会って、皆さんと楽しく今一番何をつくりたいか、そして宮崎の皆さんに観ていただける作品を、ということで考えました。今回、出演者に「かぼいも」の#4『幻視〜神の住む町』(作:シライケイタ、主演:東風万智子)に出演いただいた中野弥生さんと、劇場の事業にご参加いただいていた黒田吉郎さんがいて、このお二人にアンティゴネとクレオンを演じてもらったら、それはもう全然違う『アンティゴネ』になるんじゃないかなと。『アンティゴネ』はギリシャ悲劇の中でも珠玉の一作と言われていて、それを弥生さんと黒田さんが演じることで、全く違う世界に私たちを連れて行ってくれるような気がしたんです。お二人が持っている個性が古典の名作と衝突することで、新しい何か火花みたいなものが生まれるのではと思います。例えば、アンティゴネとクレオンが言い争うシーンがあって、すごく深刻なシーンなんだけれども、そこを弥生さんと黒田さんが宮崎弁で演じることで、全く違って見えるんじゃないかなと。そういったギャップが、今宮崎で『アンティゴネ』をやることで面白がれる部分だと思っていて、そしてそのギャップがあることでより深く、より近く『アンティゴネ』に迫れるかもしれない、そういう風に考えています。



撮影時の
(左から)黒田吉郎
中野弥生

Q. どんな作品になりそうですか？
『アンティゴネ』は紀元前から現代に至るまで愛されてきた戯曲で、それは2500年経っても変わらない人間の何かがあって、ソフォクレスが人間を見つめて人間の本質的なところを描いたからこそ、これほど長い間上演され続けてきたと思うんです。作品の持つその普遍性に触れることで、今を生きる私たちの世界が照射される。昔の物語を観るつもりでいるんだけど、気付いたら自分たちの世界とも似ているところもあれば、似ていなくても今生きている私たちの世界につながっていると感じられることがあると思うんですよね。人間って変わらないなって感じたり、自分たちの生きている時代の良さや悪さに、はたと気付いたり、そういう時間になったらいいなと思っています。アンティゴネとクレオンの対立も、人間味があって、今考えてもどちらの主張も分かるなというところで戦っていて、人間の苦しみ、変わらない葛藤があるなと感じるので、そこら辺も伝えられるといいなと思います。

Q. お客様にメッセージを
昨年、劇場が天井改修で休館してから約1年半、劇場の外に作品をお届けしてきました。今回会場となる高岡地区交流センターは、日頃地元の皆さんが体育館みたいに使っているという風に聞いて、そういう空間で観劇するのは、新しい劇体験になるのではと思います。『アンティゴネ』って聞いて、物語がすぐ思い浮かぶばかりではないと思うので、「なんだか古典をやるらしい」「劇場がやるらしい」というような気軽な気持ちでお越しいただいて、宮崎ゆかりの役者さんたちと紡ぐ、ちょっと実験的な舞台を、一緒になって楽しんでいただけたらと思います。

『アンティゴネ』って？
古代ギリシャの三大悲劇詩人の一人、ソフォクレス(紀元前496頃-406頃)による作品。テーバイ王家を書いた『オイディプス王』『コロノスのオイディプス』に続く本作は、オイディプスの娘アンティゴネに焦点が当てられている。物語は、王となったクレオン(アンティゴネの叔父)が、一つのお触れを出すことから始まる。クレオンは、先に行われた王位争いで亡くなったアンティゴネの兄を反逆者として扱い、埋葬や一切の葬祭を禁止した。しかし、アンティゴネはその禁を犯し捕縛される。兄を敬い、埋葬することは自然なことだと主張するアンティゴネと、国を守った者と反逆者を同じように扱うわけにはいかない、国家の法の厳正さを主張するクレオン。互いに譲らず、アンティゴネは幽閉され……。神の法(自然の掟)と人間の法の対立を描き、現代でも上演されている名作。

公演情報
2025年
3/8・9 『新 かぼちゃといもがら物語』番外編
『きつとアンティゴネ』
(土) (日) (土) 18:00 開演(17:30 開場)
(日) 14:00 開演(13:30 開場)
会場: 高岡地区交流センター 多目的ホール
〒880-2221 宮崎県宮崎市高岡町内山2880-1
上演台本・演出: 立山ひろみ(宮崎県立芸術劇場演劇ディレクター)
原作: ソフォクレス『アンティゴネ』
出演: 中野弥生、川添美和、梢栄、松永檀、中島佳江子、黒田吉郎、ウチハジメ、香川直美、上杉一馬、河内哲二郎

ひなたのバロック #6

ひなたのバロック#6」の
公演担当者が、
今回スペシャル・コラボをする
「恋史郎コーヒー」店主の田中さんを
訪ねました。

「ひなたのバロック」とは「五感で楽しむ」がコンセプトの本シリーズ。古楽器による最高の演奏と、大塚直哉の軽妙なトークで、その曲が生まれた当時の新鮮な雰囲気味わいながらお楽しみいただけます。

担▶ バッハの「コーヒー・カンタータ」って、御存知ですか？
田中▶ いや、クラシック音楽とかちょっと難しそうで…。
担▶ まあそうですね。自分も、バッハってちょっと、しかも面というか、気難しい感じがしてるんですけど、この曲は昔からすごく好きなんですよ！なんか、バッハっぽくないっていうか、やたら楽しくって。
田中▶ どんな曲なんですか？
担▶ むかしむかし、あるところに、「コーヒー大好きな娘さん」がいて、てか、もはや大好きってレベルじゃないですね、「コーヒー、コーヒー、コーヒーをくれよう…コーヒーをくれなきゃ干からびたヤギ肉になってしまううう…」という感じ(意訳)、もうコーヒー・ゾンビと言っても過言ではない。というのは言い過ぎで、自分の欲望に忠実な可愛らしいお嬢さん(ただしコーヒー依存症)を、ソプラノの佐藤裕希恵さんが演じてくれます。で、小池優子さん演じる「旧弊なお父さん」がいて、父は娘にコーヒーをやめさせたくて、あの手この手でやめさせようとするんだけど…っていう、ドタバタ喜劇みたいな作品です。
田中▶ それ聞くと、なんか面白そうですね。
担▶ いや、そうなんです！面白いです！しかも、そんなに長くない。あわせて10曲で20～30分くらいなんです。笑って見ると、あっという間に終わっちゃう感じ。

田中▶ でも、こんなに「コーヒー、コーヒー！」って愛してくれる娘さん、嬉しいですね。この曲が大好きとおっしゃる貴方も、さぞかし、コーヒーお好きなんですよ？
担▶ いや…、実は、ちょっと苦手なくらいで…。
田中▶ え？
担▶ え？…いや、あの、その、…コーヒーって、劇場の職員も大好きな人多くて、職場でも良い香りが漂ってきたりして、そういうの好きなんですけど、実は幼少期、酸っぱ過ぎるコーヒーにトラウマがあって…。
田中▶ お、そこは私の専門ですね。実は、自分ら取り扱ってるスペシャルティコーヒーっていうのは、…(酸化した酸っぱさとの違いや「サードウェーブ」の話などを延々と興味津々に聴く担当者)。
担▶ おおおお！そうなんです！てか、その話を伺ったら、今いただいている、この、ちょっと酸味のあるコーヒー、そのフレッシュな果実味の中から仄かに立ち上がってくる甘み、これ、ほんとに美味しいです！やばい、違いがわかる男]になってしまった！
田中▶ わかっていただけでしたか！
担▶ てか、この話、「ひなたのバロック」にすごい繋がってくる気がする！だって、古楽器っていうのも、「素材の繊細さ」みたいなところを堪能するのが醍醐味で、スペシャルティコーヒーがトップグレードの豆だからこそ本質

的なコーヒーの本質的な味わいを堪能できる、その楽しみ方と、すごく近い感覚だと思う！
田中▶ (なんか、めっちゃ興奮してる…)
担▶ だから大塚先生も、古楽というのは、その当時の様式の楽器(古楽器)で当時の響きを奏でる、フレッシュな体験だという言い方をしてみましたもん。むしろ、このフレッシュなコーヒーの相伴に最適なのは、古楽(バロック音楽)しかないと言っても過言ではない！
田中▶ いいですね！(暴論！)
担▶ いや、もっとデカイ話につながってきた。今回フィーチャーするバッハって、宗教音楽とか教会とか切り離せないし、そもそも音楽自体、もっと時代を選っていくと、やっぱりそういう宗教的だったり呪術的な儀式とか、そういうところに端を発してると思うんですけど、コーヒーもまた、そういうところから始まって、そして次第に各地に伝播してヨーロッパにも入ってきて、いつの間にかそもそもの発端の意味とは切り離されて、嗜好品として、爆発的に市民権を得ていく…そんな流れも(クラシック)音楽なんかと同じじゃないですか！…やばいなコレ。公演当日、田中さんにも大塚先生と、後半の「コーヒー・カンタータ」の演奏前に少し対談をしてもらえたらと思ってるんですけど、なんだか、めっちゃ盛り上がりそうですね。時間はたぶん10分くらいしかとれないと思うんだけど…。

ちいさなちいさな
マルシェ開催
コーヒーや焼き菓子の販売！
時間 13時から17時まで
場所 橘公園噴水広場(宮崎市民プラザ前)
(公演中・休憩中を除く)
恋史郎コーヒー
焼き菓子 IMAGINE
場所 市民プラザ1階ロビー
炭火焙煎珈琲 南蛮屋
カフェ「ラララはあーと」

公演情報
2025年
3/2 「ひなたのバロック」
(日) 14:00 開演(13:30 開場)
会場: 宮崎市民プラザ オルブライトホール
〒880-0001 宮崎市橘通西1丁目1-2
出演: 大塚直哉(企画・監修/チェンバロ)
桐山建志、大西律子(バロック・ヴァイオリン)、廣海帆帆(バロック・ヴィオラ)
西沢央子(バロック・チェロ)、栗田涼子(ヴィオローネ)、戸高美穂(フラウト・トラヴェルソ)
佐藤裕希恵(ソプラノ)、藤井雄介(テノール)、小池優介(バリトン)
〈プログラム〉 J. S. バッハ: ブランデンブルク協奏曲第5番 BWV1050
コーヒー・カンタータ BWV211 ほか



かくしてコーヒー&芸術談義が果てなく続く…

WEB予約・購入 劇場公式 チケットサービス

ticket

どこよりも**最速**で
予約・購入できる!

POINT ① 好きな座席をご自身で選べます
座席表から自分で空席をみながら
選ぶことができます。

POINT ② **発券手数料無料!**
※支払手数料・レスQの発券手数料は
お客様ご負担

POINT ③ WEBで24時間
いつでも予約・購入OK

POINT ④ チケットの受け取り方法を選べます
劇場窓口 セブンイレブン チケットレスQ (電子チケット)

POINT ⑤ WEB無料会員は
登録料無料・年会費無料!

メディキット県民文化センター 自主事業公演チケット情報 (宮崎県立芸術劇場) 2025年

1月25日(土) 26日(日) 門川町総合文化会館
門川町総合文化会館
門川町総合文化会館×宮崎県立芸術劇場
かどがわ演劇の広場「かどっこ」特別編
発表公演&ショートフィルム上映
(発表公演『うみのらくがき』)
作・演出: 濱沙泉宏
出演者: かどがわ演劇の広場「かどっこ」の受講生
(ショートフィルム『ぼくらのキャンパス』)
監督: 吉田将大 脚本: 濱田明良、吉田将大 監修: 本木克英
出演者: 下水流いつみ、丸太大地、黒木梨澄、小林清二 ほか
全席自由 一般1,500円 高校生1,000円 中学生以下500円 **チケット発売中**

2月24日(月・祝) ウエルネス交流プラザ ムジカホール
開演 14:00
加藤昌則の「粹なりクラシック」都城公演
出演: 加藤昌則(ピアノ/ナビゲーター)、濱崎由紀(クラリネット)
全席自由 一般2,000円(1,800円) U25割1,000円 **チケット発売中**

3月2日(日) 宮崎市民プラザ オルブライトホール
開演 14:00
ひなたのバロック#6
企画・監修: 大塚直哉(チェンバロ)
出演: 桐山建志、大西律子(バロック・ヴァイオリン)
廣海史帆(バロック・ヴィオラ)
西沢央子(バロック・チェロ)
栗田涼子(ヴィオローネ)
戸高美穂(フラウト・トラヴェルソ)
佐藤裕希恵(ソプラノ)
藤井雄介(テノール)
小池優介(バリトン)
全席自由 一般2,000円(1,800円) U25割1,000円 **チケット発売中**

3月8日(土) 9日(日) 高岡地区交流センター 多目的ホール
「新 かぼちゃといもがら物語」番外編
『きっとアンティゴネ』
上演台本・演出: 立山ひろみ 原作: ソフォクレス『アンティゴネ』
出演: 中野弥生、川添美和、梢栄、松永檀、中島佳江子、黒田吉郎、
ウチハジメ、香川直美、上杉一馬、河内哲二郎 **チケット発売中**

Attention(ご注意) ◎記載情報は変更になる場合があります。◎()内はくれっしえんど倶楽部会員価格です。
◎U25割は鑑賞時25歳以下が対象。その他の割引サービスの詳細は、劇場HPをご覧ください。◎当日券が出る場合は、一般
チケットのみ500円増になります。※一部公演除く◎託児サービス(有料・事前申込要)がご利用いただけます。※一部公演除く

令和7年度 音楽アウトリーチ 開催団体 募集!

音楽室や
身近な場所に
アーティストが
やってくる

小学校や中学校、
その他施設など…
宮崎県内
端から端まで
伺います!

応募締切
2025.
3.31(月)
必着

対象
・幼稚園・保育所・学校・施設
・地域のコミュニティ団体 など
営利目的の団体は対象外です

特徴
●ピアノがあれば実施可能
●少人数/原則50人以内
●集中しやすい時間/幼稚園・保育園:30分
小学生以上:45分

音楽アウトリーチ事業活動報告を公開中! 【これまでの実績例】 保育施設 学校 福祉施設 病院 など